

誰もが、誰かの、
たこからもの。

特別支援学級担任の授業づくりを支える教育センターの取組

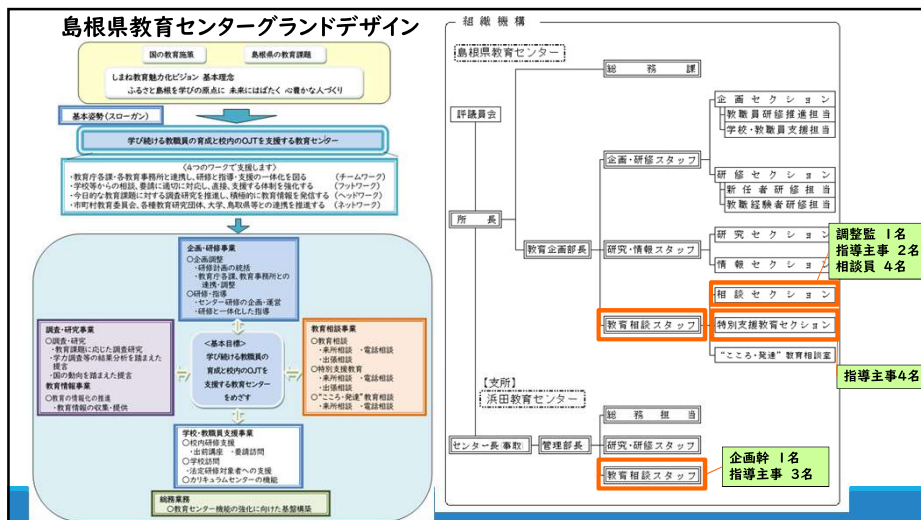
島根県教育センター
教育相談スタッフ 特別支援教育セクション
指導主事 土井 史

発表内容

1. はじめに
2. 島根県の特別支援学級の現状と課題
3. 授業づくりを支える資料の作成と活用
4. 授業づくりを通して多様な感じ方や学び方の理解へ

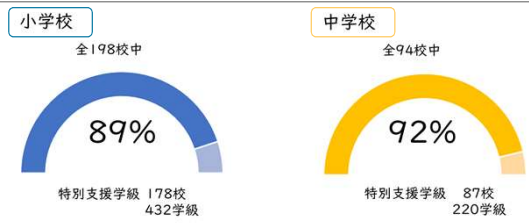
1. はじめに





2. 島根県の特別支援学級の現状と課題

県内小・中学校特別支援学級設置校数(義務教育学校前期・後期を含む)



初めて特別支援学級を担当する教員対象の研修受講者数(義務教育学校前期・後期を含む)

年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
受講者数	133名	156名	152名

★課題①

例年、全特別支援学級担任数の約1/4が初めて担当する教員に入れ替わっている。



特に経験の浅い特別支援学級担任対象の研修を充実させている。

島根県教育センター 特別支援教育に関する研修について

島根県教育センター教育相談スタッフ特別支援教育セクション

①特別支援学級担任、通級指導教室担当が受講する研修

島根県教育センターでは、特別支援学級等での職務経験年数に応じて以下の3つの必修研修を行っています。1十分ご確認の上、申請してください。対象かどうか判断できかねる場合は、記載の担当部署までお問い合わせください。

段階的にインクルーシブ教育を浸透させる手立て

【858】小・中学校特別支援学級、通級指導教室新任担当教員研修

受講対象
★初めて特別支援学級を担任または通級指導教室を担当する小・中学校及び義務教育学校の教員（※次の者を除く）

・通級指導教室の担当経験があるが、初めて特別支援学級を担当する者。
・特別支援学級の担任経験があるが初めて通級指導教室を担当する者。

※特に特別支援学級の勤務経験があり、初めて特別支援学級又は通級指導教室を担当する者（うち希望する者）

【研修センター研修回数】
年間3回（うち、第2回目は希望者のみ）

特別支援学級や通級指導教室の学級経営や授業づくりについて学びます。

受講者それぞれ実践を持ち寄り紹介しあうことで、授業力の幅を広げます。

また、個々でテーマを設定し課題研究に取り組み、授業づくり等についての理解を深めていきます。

集合研修2回+希望者オンライン研修1回

【1094】特別支援学級担任3年目研修

受講対象
★小・中学校及び義務教育学校の特別支援学級担任のうち、令和4年度末までに特別支援学級担任を満了して2年以上3年未満経験した者（※講師の経験を含む）

【研修センター研修回数】
年間1回

特別支援学級の魅力を活かした学級経営や授業づくりについて学びます。

受講者それぞれ実践を持ち寄り紹介しあうことで、授業力の幅を広げます。

また、個々でテーマを設定し課題研究に取り組み、授業づくり等についての理解を深めていきます。

2年間の研修です。（05は1年次）

講義や授業研究を通して、特別支援教育に関する専門性を身に付けます。

また、個々でテーマを設定し課題研究に取り組み、授業づくり等についての理解を深めていきます。

集合研修1回
・対面を大事に→地域のつながり
・集合の負担→オンラインの取り入れ

【1173】特別支援学級担任スキルアップ研修（1年次～2年次）

受講対象
★小・中学校及び義務教育学校の特別支援学級担任のうち、令和4年度末時点で、特別支援学級担任を満了して4～6年間経験した者

★平成28年度までの中学校特別支援教育担当採用者かつ令和5年度特別支援学級担任であるので、本研修を受講していない者

【研修センター研修回数】
年間3回

2年間の研修です。（05は1年次）

講義や授業研究を通して、特別支援教育に関する専門性を身に付けます。

また、個々でテーマを設定し課題研究に取り組み、授業づくり等についての理解を深めていきます。

また、個々でテーマを設定し課題研究に取り組み、授業づくり等についての理解を深めていきます。

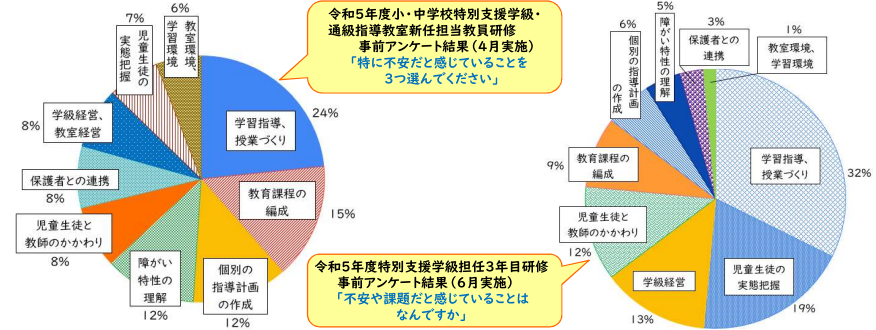
集合研修1回+学校会場研修1回+オンライン研修1回×2年間

R4～希望者対象の第2回（夏休み）を設定

★課題②

特別支援学級担任に求められる専門性の幅広さ

→特に「授業づくり」について悩む声が多い。



特別支援学級担任が授業づくりの中で苦戦しているところ

（研修後の振り返りや地域の教育事務所指導主事との情報共有から）

自立活動について

- ・「個々の実態把握～具体的な指導内容の設定」と実際の授業づくりを結びつけにくい
- ・本やワークシート等の資料を参考にしているが、児童生徒の実態に合わせて変更していくことが難しい
- ・自立活動と生活単元学習の違いが分かりにくい
- ・「心理的な安定」「コミュニケーション」の区分の内容で、何を行ったらよいのか分かりにくい

各教科等を合わせた指導について

- ・学習活動の内容が、どの教科と結びついていくのかイメージできにくい
- ・活動の中で児童生徒のどんな力を育てていくのか、分かりにくい

教科指導について

- ・児童生徒の実態に合わせて具体的な内容をどのように行ったらよいのか、分かりにくい
- ・☆本を見ても、そこから具体的な学習内容を想起しにくい
- ・複数学年にまたがって教科指導を行っていく難しさ

特別的教育課程の理解の難しさ

児童生徒の実態把握の難しさ

授業の具体や実際に触れる機会の減少

校内で相談できる体制が整っていない

3. 授業づくりを支える資料の作成と活用

めざすのは・・・

「特別支援学級担任が、
情報を活用しながら児童生徒の実態に合った授業づくりができる」

得た情報をもとに授業づくりに必要な内容を整理しながら考えていくことができる様式『Go!Go!授業づくり!シート』

インクルーシブ教育の浸透へ

校内での特別支援学級の授業づくりの共有へ!

授業づくりの流れやポイントがわかるような支援

実態把握

活動内容が具体的にイメージできるような支援

『Go!Go!授業づくり!シート』を作成するうえで大切にしたい3つの視点

「児童生徒の実態に合った授業づくり」に向けて大事にしたい要点を伝えられるように

情報を活用しながら考えることができるように

授業改善につながるように

各教科用

自立活動用

各教科等を合わせた指導用

「様式」「記入のポイント」「授業例」

『Go!Go!授業づくり!シート』の実際（自立活動用）

【資料の概要】様式1

Go!Go!授業づくりシート 自立活動用 様式1(一人在籍)

指導目標(長期目標)	① 一人一人の指導目標(長期目標)
指導内容	② 一人一人の長所・よさ・興味関心
単元の指導目標	一人一人の単元の指導目標
単元の主な活動内容	③ 具体的な指導内容を考える際の配慮事項

★自立活動の具体的な指導内容を考える際の配慮事項です。指導内容を考える際に学年に合わせて次の点を意識しましょう。
ア 主体的に取り組む イ 改善・発展の意欲を保持 ウ 発達の基盤である用語を要し伸ばす
本 自ら関わり合い合う(幼種別のみ) オ 自ら準備を整える
キ 自立活動を学ぶことの意義について考えさせる
自立活動の配慮事項についての詳しい説明は、『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼種別・小・中・高)』の111～113ページに掲載されています。詳しくはこちらをご覧ください。

様式2

Go!Go!授業づくりシート

一人一人の単元の指導目標
詳しい活動内容
一人一人の手立て

『Go!Go!授業づくり!シート』の実際（自立活動用）

【資料の概要】記入のポイント

児童生徒名	評価
A	★児童生徒の評価には、「単元の指導目標ができたか」だけでなく「児童がどのような点でつまづきがあったのか」「指導目標に向かって努力したことや努力しようとした態度」を記録します。
B	
C	
D	

評価の視点	①活動内容	②活動量	③活動の流れ
	④教具	⑤活動の場の配置	⑥指導目標の妥当性

★6つの評価の視点からこの単元を振り返り、指導の改善を行います。
「活動内容、活動量、活動の流れ、教具、活動の場の配置」が適切だったか、「目標の妥当性」は、単元の指導目標が児童の実態に合ったかについて、振り返ります。気がついた視点について振り返りを行います。

『Go!Go!授業づくり!シート』の研修での活用

- ・経験者研修(教職経験6年目研修、中堅教諭等資質向上研修)
→校内での授業づくりへ
- ・初めて特別支援学級担任となる教員の研修(夏休み・希望者)



様式をスプレッドシートに変換し、
オンラインでの研修に取り入れる
(3~4名のブレイクアウトルームで
授業づくりについての講義+シートの記入)

対面しなくても、指導主事が担任それぞれの授業づくりに向けた
思考や悩みを具体的に把握して、助言を行うことができる!

研修受講者の記入したシート

小学校病弱特別支援学級(一人学級)担任
自立活動

Go!Go!授業づくり!シート

指導目標 (長期目標)	病弱についての理解を深め、自分で危機管理ができた、1日に適切な運動量を考えたりすることができる。
指導内容	◎健康チェックをしたり、1日の行動(疲れ具合)を振り返ったりすることで、自分の健康状態を把握し適切な運動量を考える。 ・紐合わせやパズルといった、手を動かしながら集中して行える活動に取り組み、注目すべきところに注意が向いたり、集中力が続いたりすることを実感する。 ・姿勢保持、移動、上肢の諸動作といった、日常生活に必要な基本動作を身につける。
学習や生活の中で見られる長所やよさ 興味・関心	・体を動かして遊ぶことが好き。 ・いつも気ままな様子ができる。 ・進んで手伝いをしてくれる。 ・『鬼滅の刃』が大好き ・友達とトラブルになることがない。自分が悪かったところ速速に認めて謝ることができる。
単元の指導目標	自分の体のことに配慮して、安全に楽しくできる遊びを見つけることができる。
単元名	みんなで作りたい!『ぼくのおそび』
主な活動内容	・どんな遊びがあるのか、情報収集をする。(インタビュー、本) ・できそうな(やってみよう)遊びを選び、試してみる。 ・支援学級や交流学級の友達を紹介する。
単元の指導目標	自分の体のことに配慮して、安全に楽しくできる遊びを見つけることができる。
手立て(単元を通して)	・遊びを考える際の『できそう』か『難しそう』かの判断基準となるように、本思の運動制限に関する事項を記しておく。 ・一人学級で、多様な他者と関わる機会が少ないため、情報収集の手段としてインタビューを取り入れ、身近な先生方とコミュニケーションをとる機会を設ける。

研修受講者の記入したシート

中学校自閉症・情緒障がい特別支援学級
(三人学級)担任
自立活動

Go!Go!授業づくり!シート

児童生徒名	A	B	C
指導目標 (長期目標)	◎自分の思いや困っていることが伝えられるようになる。 ◎自己管理能力が身に付くようになる。	◎中学校卒業後のイメージを持ち、得意なことを伸ばしていける力をつける	◎高校進学に向けて、学力向上や自己コントロールができるようになる。
指導内容	◎関心がある事柄について、友だちや教師に説明することによって、相手のことを考えたり困り感を共有出来たりするような指導をする。 ◎関心のあることから将来の進路にもつなげて考えて行けるようになる。 ◎物の管理など、自分の分かりやすい方法を相談しながら決めていく。	◎自己選択ができるように、卒業後の進路について具体的に提示する。 ◎本人のやりたいことや得意なこと(イラストを描くことや切り絵、パソコンなど)を生かした活動を行い達成感につなげる活動をしていく。	◎学習面での基礎基本が身に付くようにサポートしていく。 ◎本人のやりたいことや得意なこと(イラストを描くことや切り絵、パソコンなど)を生かした活動を行い達成感につなげる活動をしていく。 ◎感情のコントロールができるように声をかけていく。
学習や生活の中で見られる長所やよさ 興味・関心	◎興味のあることには、集中して積極的に取り組む。 ◎周囲を見て動くことができる。 ◎できないことや嫌なことは、はっきりと『できない』ということが出来る。	◎イラストや切り絵など手先が器用で得意	◎交流学級で、落ち着いて過ごしている
児童生徒名	A	B	C
単元の指導目標	◎誰でもわかりやすいスゴロクを作り、スゴロクをする人のことを考えて説明書を作成する。	◎卒業後のイメージを膨らませて、自分の意志で進路選択をする。	◎入試に向けて、気持ちをコントロールしながら基礎学力をつけていく。
単元名	『すごろくをみんなで作ってみよう』	『将来のイメージを膨らませよう』	『入試に向けて』
主な活動内容	・誰もが面白くて、分かりやすいのはどんなすごろくかを考え作成する。	・中学卒業後の進路感を上げ、イメージを現実化させる。	・入試で何が必要か確認する。 ・自分の苦手を克服するための手立て(家庭学習方法)

オンライン研修での授業づくりシート活用の効果と課題

受講者より

<シートについて>

- ・分かりやすく、授業構成しやすい
- ・授業の作り方の具体的なイメージをもてるようになった
- ・講義だけでは分からないことが、実際にシートに記入しながら考えることでより理解できた

学んだことを自学級の状況と結び付け、具体化できる

<オンラインでのシートの活用について>

- ・オンラインでも一人一人に対するの助言をしてもらい、とても勉強になった(多数)
- ・いろいろな資料(重い参考資料や個人情報など)を校外に持ち出すことなく、必要に応じて広げながら研修できるのがオンラインのいいところだと感じた
- ・他の受講者の意見や授業シートの作り方も聞け、活動内容を参考にできる
- ・スプレッドシートの活用はオンライン開催ならではのメリット
- ・今後もオンラインで研修する場合はこのような方法でアドバイスがほしい

校内で受講するメリット
+
個に応じた助言
+
他校との共有

<課題>

- ・自分がスプレッドシートが初めてで操作に時間がかかったため時間が有効に使えず残念だった

誰もが使いやすくなるような工夫

4. 授業づくりを通して 多様な感じ方や学び方の理解へ

特別支援教育コーディネーターや、希望者対象の研修

②新任特別支援教育コーディネーターが受講する研修

【919】 新任特別支援教育コーディネーター研修

受講対象

★特別支援教育コーディネーターに初めて指名された小・中学校及び義務教育学校、高等学校の教員（各校1名まで）
（本校、分校、定時制、通信制課程それぞれから対象教員が参加。私立中学校・高等学校はそれぞれから対象教員が参加。上記に加え、希望する特別支援教育コーディネーター（各校1名、新任がいる学校は新任のみ）

教育センター研修回数

年間2回（うち、第2回目は希望者のみ）

特別支援教育コーディネーターの役割や特別な支援が必要な子どもの理解と対応について、講義や実践発表等を通して学びます。

③能力開発研修（各学校の希望者が受講する研修です）

【1143】

特別支援学級、特別支援学校における授業づくり講座

受講対象

★小・中学校、義務教育学校、特別支援学校の教職員

R5の研修内容

講師：長野県長野看護学校教諭、国立特別支援教育総合研究所特任研究員 青木 高光 氏
 佐賀市立小中一貫校松梅校 教諭 木田 啓二 氏

～「できること」からはじめよう！
 知的障がいのある子どもの主体的な学びのためのICT活用～

【1215】

特別支援教育専門講座

受講対象

★小・中学校、義務教育学校、高等学校及び特別支援学校の教職員

R5の研修内容

講師：広島大学大学院 准教授 氏間 和仁 氏

～Let's support! 通常の学級に在籍する子どもたちのために
 子どもの実態から考えるICT活用～

【1299】

すべての教職員に役立つ！

支援につながる子どもの理解講座

受講対象

★小・中学校、義務教育学校、高等学校及び特別支援学校の教職員

R5の研修内容

講師：東京都杉並区立済美教育センター 指導教員 月森 久江 氏

～子どもの願いに寄り添うための教師の
 基本姿勢～
 通常の学級等における特別な支援を必要とする子ども一人一人の願いに寄り添ったかわりや支援について

出前講座

希望の学校に出向いて行う研修講座（90～120分程度）

	内容	対象
401	多様なニーズに応じた指導・支援の基盤とは （ワークショップ）	小学校 中学校 高等学校 特別支援学校 その他団体
402	通常の学級における気になる子どもの見方について考える ～子どもの見方とらえ方～	小学校 中学校 高等学校 その他団体
403	合理的配慮の提供 ～個への対応～	小学校 中学校 高等学校 特別支援学校 その他団体
404	高等学校における配慮を必要とする生徒の支援について考える ～青年期の支援について～	高等学校 その他団体
405	読み書きに困難のある児童生徒の理解とICTを活用した支援について	小学校 中学校 その他団体

教育センター研修での授業づくりから校内での授業研究へ

校内全教員参加の授業研究での意見より

<A小学校 肢体不自由特別支援学級 自立活動>

「子どもの行動を肯定的に見て、返している」

「言語化を大事にしている。誰にも伝わる言葉で返すことを意識している」

「“めあて”は掲示されていたが、授業者と児童の間で共有されていた。」

「児童の実態に合っており、こんなやり方もあるのだと思った」

「自由な雰囲気の中で、自己選択を促し考える場面も設けられていた」

参加者の様々な気づき = 特別支援教育の研修

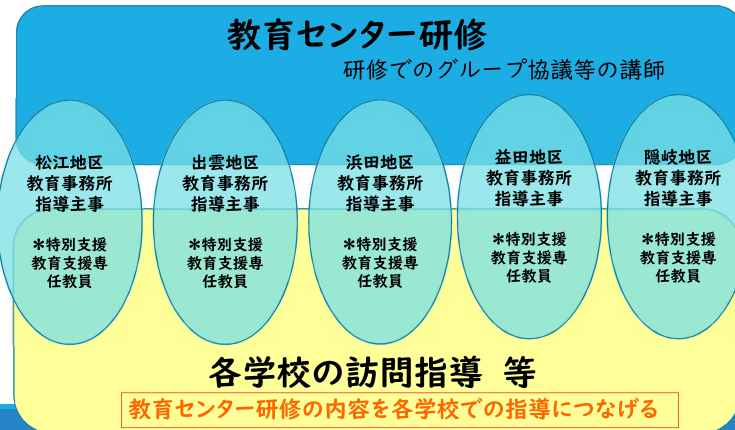
自立活動の
ねらい

児童の良さを
大事にした
かわり

児童の実態に
合った
手立て



特別支援学級担任対象の研修における各地域指導主事との連携



多様な感じ方や学び方
それに応じた手立て
への気づき・共有

特別支援学級の児童生徒や
教育への理解の促進

特別支援学級の授業づくり

教育センター 各教育事務所等

研修

資料

相談

今後に向けて

- 授業づくりシート等の資料を、校内での授業づくりの相談の共有ツールにするための啓発
- 特別支援学級担任の授業を共有する機会の確保
- 地域での発信力をもつ特別支援学級担任の人材育成

ご清聴ありがとうございました

「日本の夕日百選
宍道湖」